

いきがいの農業

黒滝村農業委員会

1. 黒滝村の農業の概要

黒滝村は、人口770人、世帯数394世帯の小さな村で、奈良県のほぼ中央に位置し、村の総面積の約94%を林野が占めています。豊かな自然と森林資源に恵まれ、昔から吉野杉と呼ばれる高級材で有名な、杉や桧の生産地として知られており、林業は長い間本村の基幹産業として位置づけられていました。そのため、農業への関心は低く、自家消費分のみを耕作しているような状態です。農地も少なく、花木の高野槇以外は特に農業による収入はありません。

さらに、高齢化・過疎化が進み、後継者がほとんどいないので、年々農業の担い手が減少しており、また、シカの食害により農業用地の荒廃の増加と、耕作意欲の低下が問題となっています。

平成24年には村政百周年ということで、同じ百周年つながりの通天閣を通じた大阪市浪速区との提携事業を年数回開催し、交流を深めています。黒滝村でつくられた「猪肉」と「ししとう」で作った串カツも期間限定ながら、新世界境界で提供されました。



2. 農業委員会の取り組み

黒滝村農業委員会では、年々増加する遊休農地の解消及び農業の担い手育成のために、こんにゃく芋を推奨作物とし、種芋を購入した方に村より補助を出しています。収穫されたこんにゃく芋は、地元のこんにゃく組合に買い取ってもらい、申こんにゃくとして販売されています。



平成23年の豪雨災害からの復興事業で、県から「ふるさと応援復興隊」を派遣してもらい、トマトや村在来種の「白きゅうり」などの試験栽培を行っています。農業委員会ではこの取り組みをアドバイザーとして支援しています。



また、平成14年7月より、道の駅「吉野路 黒滝」において朝市の常設をし、村内で栽培された野菜や果物の販売を行っています。新鮮な採れたての野菜ばかりで、村民だけでなく黒滝村に訪れる観光客で賑わい、村の活性化の一翼を担っています。

他にも、有害鳥獣による農産物の被害の防止を図るため、猟友会に依頼し捕獲オリを設置するなど有害鳥獣の駆除を行ったり、畑に防除柵を設置したものに対して村より費用の2分の1の補助を出すなど積極的な農業の促進に取り組んでいます。

現在、農業を取り巻く環境は厳しくなる一方ですが、そのような中でも、農家や農業委員会を中心に、いきがいの農業からさまざまな可能性を模索していきたいと考えています。